

特集

Dr. Cheryl Tatano Beck 特別寄稿

Secondary Qualitative Data Analysis : A Goldmine for Qualitative Researchers

EAFONS 2023 プレコンgressセミナーを踏まえて

本年3月、東京大学にて開催された第26回EAFONSでは、Keynote SpeakerとしてDr.Cheryl Tatano Beckが招聘されました。Dr.Beckは、言わずと知れた『看護研究——原理と方法』（医学書院刊）の著者の1人で、同時に産後うつ研究者としても名高く、産後うつスクリーニングスケールの開発をはじめ数多くの価値ある研究を積み重ねられています。この貴重な機会に、EAFONSに先立ってEAFONS' Pre-Congress Webinarと銘打ち、EAFONS代表理事で第26回EAFONS大会長の池田真理先生（東京大学大学院医学系研究科教授）ご協力のもと、Dr.Beckに講演いただきました（共催：東京大学大学院医学系研究科附属グローバルナースングリサーチセンター、一般社団法人日本看護系大学協議会、公益社団法人日本看護科学学会）。

近年、海外ではオープンサイエンスの潮流の中、アーカイブ化された質的データの二次分析が広がりつつあり、Dr.Beckも、産後うつに関する研究事例から二次分析に取り組まれています。日本でも今後重要となる取り組みとして、多くの関心を集めることが予想されます。そこで、講演ではDr.Beckにこれまでの研究事例を紹介いただきながら、二次分析のプロセスについて具体的に解説いただきました。本特集では、Dr.Beckによる書き下ろし原稿の形で、この講演のエッセンスをご紹介します。当日の質疑応答の質問にも、一部回答いただきました。本稿を通して質的データの二次分析のポイントを共有し、わが国でも、取り組みが進展していくことを願っています。池田真理先生と、講演の実現に尽力いただいた多くの方々に御礼申し上げます。

『看護研究』編集室